



二松学舎大学

# 父母会報

平成5年5月10日創刊  
令和8年3月31日発行  
(第132号)

二松学舎大学父母会

(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16  
二松学舎大学学生支援課

題字は

故 観山貞広常吉先生書

## 卒業を祝す



父母会長

武石 智実

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、父母会役員の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。

二〇二六年三月十七日(火) 文京シビック大ホールにおいて、二〇二五年度学位記授与式(卒業式)が厳肅な雰囲気の中、挙行されました。大学生活最後の式典ということもあって、参加された卒業生の皆さん、父母等保証人の皆様の緊張された面持ちを壇上から拝見させていただき、私自身も胸に迫る想いがありました。

卒業後は、新社会人として働く人もいれば、大学院などさらに学問を深める人もいるでしょう。いずれにしても、これまでの生活とは異なるという点においては、皆さん一様に期待と不安を感じていることと思います。新生活を開始するにあたり、いまだ一度、手に取った学位記を眺めながら、二松学舎大学で過ごした大学生活を思い返してみてください。この学位記には、皆さん



の「努力」・「喜び」・「苦しみ」・「楽しかったこと」・「時には辛かったこと」の様々な思い出が、すべて閉じ込められています。そしてまた、それらの思い出を一緒に作ってくれたご友人や、お世話になった素晴らしい諸先生方、身近に寄り添ってくれた頼れる職員の皆様方の笑顔も詰まっていると思います。

二松学舎大学は、決して大きい規模の大学ではありませんが、だからこそ、ひとり一人の距離感が近く、濃い時間が送れたのではないのでしょうか。私自身も、父母会の活動を通じて教職員の皆様と交流し、地方で保証人様の声も伺いながら、親の視点を踏まえたいくつもの新しい取り組みをこの四年間行ってきました。父母会に所属したことで、これまでの親としての目線とはまた違った目線を持つことができ、非常に意義深い時間を過ごせました。大きな規模の大学であれば、ここまで個人の意見や考えが反映されることもなかったように思います。

今回の父母会報は、「卒業記念特集号」となっております。紙面をお開きいただくと、大学トップの先生方から卒業生の皆さんに向けたお言葉や、授業でお世話になった先生方からの励ましのお言葉、学位記授与式や父母会主催の卒業記念パーティーでの二コマ等が、華やかに彩られています。この二松学舎大学で学んだことは、これからの皆さんの人生の糧となり、さらなる飛躍の足がかりとなることを期待してやみません。

どうか卒業生の皆さん全員が、今後も健康で素敵な人生を過ごされることを祈念して、父母会長の言葉とさせていただきます。末筆となりますが、二松学舎大学および同父母会の益々の発展と、会員・関係者の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

# AI時代における「人間知」の真価 未来を拓く「羅針盤」に

学校法人二松学舎 理事長 水戸英則



卒業生、修了生の皆さん、この度は誠にありがとうございます。さて、皆さんが漕ぎ出す社会は「第四次産業革命」という歴史的転

これまで温かく見守ってこられたご家族、ならびに教職員の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。

日々進化するAI技術により日常生活が激変する中、皆さんも「AIに仕事を奪われるのではないか」、「大学での学びに意味はあるのか」と不安を感じることもあるでしょう。しかし、デジタル化が加速する未来に最も必要とされる能力こそ、まさに皆さんが本学で修めた『人文社会科学の知見』をベースとした『人間知』ともいえるべきものです。

## 卒業生へ贈る言葉

学長 佐藤晋



卒業生の皆さん、大

れること、心からお喜び申し上げます。今日、異常気象による環境変化や技術革新による産業構造の変動、国内の少子高齢化や不安定な世界情勢など様々な要因が複雑に絡み合い、

わずか数年先の社会動向すら予測困難な状況です。そうした先の見通し

現状、AIは膨大なデータを分析し、最適解を出すことはできますが、「何を指すべきか」という目的の設定や、その選択が「社会にとって善か」という価値判断まではできないのです。歴史的背景や文化的な配慮、人の機微、社会正義を読み解き、AIという強力なエンジンを正しい方向へ導くための「羅針盤」。それがそが人文社会科学の力であり、皆さんの手の中に確固としてあるものです。

どうか、その知性に自信を持ちつつ、創立者・三島中洲先生から受け継いだ「温故知新の精神」で変革に挑んでください。重要なのは、大学

汰されていきました。

そうした変化に備え、皆さんには常に新しい考え方やスキルを周囲と協調して身につけていって欲しいのですが、一方で、いつの時代、どのような状況においても忘れてほしくないことがあります。

かつてアメリカで「ハードヘッド・ソフトハート」という言葉が流行ったことがあります。これは主に経済政策に関して合理的な政策を科学的に判断する「ヘッド」と、弱者に対する思いやりなど社会保障にも配慮する「ハート」を備えていないといけないというものです。この考え方は皆さんにも有効で、データサ

で培った「人間としての徳性」というOSを土台に、「最新の知見」というアプリを常にアップデートし続ける姿勢です。卒業証書は未知への通行手形に過ぎません。

変化を恐れず、リスクリング、つまり、スキルの再開発や学び直しによって自らを更新し続けられれば、皆さんはいつの時代も社会の第一線で輝き続けることができるはずです。

「人文社会科学という不変の知見」と「変革への適応力」。この二つの翼を大きく広げ、新しい時代を高く、力強く飛翔されることを祈念し、私の祝辞といたします。

イエンスなどを用いて論理的・科学的に判断する「頭脳」が今後ますます必要とされていく一方で、相手に寄り添いその困りごとの本質を理解しつつ解決策を一緒に考えられるような力、具体的には思いやり、傾聴力、コミュニケーション力など「心」に関わる能力も変わらず必要であるということです。

本学での学びで習得した論理的な思考力・推論力、「ハードヘッド」を、学生生活全般で身につけた自分の周辺の課題に気づくことができる「思いやりの力」で運用し、今後の社会生活に役立てていってほしいと思います。

## 困難な時代において

文学部長 五月女 肇 志



まとめ、最後の試験もクリアした直後には、ミラノ・コルティナオリンピックで史上最多のメダルを獲得した日本選手団の目を見張る活躍に勇気を貰った方々もいらっしやるでし

御卒業、誠におめでとうございませう。皆さんが必死に卒業研究を

よう。それから間もなく中東で勃発した戦争の惨禍に、これから先の不安を感じられた方も多いと思いま

見える孔子の言葉に「歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知る」というものがあります。松や檜のような常緑樹は冬になって初めて他の木と異なり枯れずに、緑を保っていることがわかります。それと同じように、厳しい状況に直面して初めて、その人の真実の姿が明らかになるという意味の言葉です。孔子は、逆境にあつてどのように行動するか、どのように考えるのかという点から、人の本質が知られると言いたかったのでしょう。私が専門とする日本の古典文学にも多大な影響を与えた言葉です。

誰がやっても変わらないように見えるものです。困難に直面した時、その言動でその人の本性が現れて来ると思えます。今日までの四年間、ゼミナール・講義・演習・実習・フィールドワーク等多くの先生方・友人・先輩・後輩と関わりながら様々な学びの経験をして来たはずで、困難に立ち会った時、それらの経験を思い出し、皆さんが本学で培って来た真の人間性を発揮し、乗り越えて頂きたいと思えます。

## 新しいステージに進むみなさまへ

国際政治経済学部長 高岸 直樹



てこられたご親族のみなさまにもお祝いを申し上げます。これから、社会人となる方、さらに研究を続けられる方と進路はさまざまですが、新しいステージに進ま

ご卒業おめでとうございます。また、みなさまを支え

この新しいステージでは、IT技術の進化をさらに感じるようになると思います。国内の二拠点を結ぶテレビ会議すら難しかった時代から、自宅にいて、世界のイベントに参加し、多くの人と会話することができ

しかし、私は、現場という「リアル」な空間も大切にして欲しいと思います。どれだけ経験者から話を聞き、書物を読み、映像を見て、バーチャルな三六〇度の空間を共有したとしても、それはリアルな空間における実感ではないのです。

完する以上の価値があることが多いのです。たとえ一分間でも、そのリアルな空間に身を置いてみることで、これにより自分が求めているいなかった多くの情報を得ることができま

国文学科、国際日本・中国学科、都市文化デザイン学科、歴史文化学科、  
教職課程の先生方から饒の言葉を頂きました。

ハスか来る前に  
周りをよく  
見ておこう。

森野 崇

卒業後の御活躍をお祈りいたします。  
士林樹哉

初心忘るべからず  
中所宜夫

みなさんには

未来しかありません

未来へ

塩沢 平

四月から始まる新生活で  
どんな出会いが待っているのか、  
とても楽しみがですね。  
大学時代に得られた出会いも  
また大切にしてください。  
ご活躍を！

妹尾好信

君子者奉天職者也

それだけの道で活躍されること  
を祈ります。

町泉 寿郎

あなたの意識が

未来を創る

塩田 今日子

笑門 来福

中川 桂

胡桃の殻に閉じこめられても、  
無限の宇宙の帝王(バカレトトマシ)

イありん。

和久 希

困った時には、『菜根譚』も  
読んで下さい。

小山 聡子

小人計其功  
君子道其常

(操るが功を心に持つこと)

牧角悦子

「それはもはや別の物語り、  
新しい別の物語りでなければ  
ならない。」(大西巨人『神聖喜劇』)

山口直孝

積善余慶

ご健康・ご活躍・ご多幸と  
いつも祈ります!!

原由来 恵

未来なんてちよっと〜たはげすんで  
どんどん変わるから

1 ドラえもん の言葉 関 俊史

不言 実行

堀野 正人

# 文学部・教職課程

至誠惻怛

荒井俊郎

すぐには分からぬものを

大切にしてください。

仙石知子

## 新しい葡萄酒は

### 新しい革代表に(聖書)

目まぐるしい変化の時代です。柔軟に、そして自らの志をしっかりと持ってください。

麻生将

時には、入学が過ぎ、時に時間と  
思い、出しく、たさい。  
ひまさん、活躍と、祈、こります。

荒井松樹

事を謀るは人に在り、事を成すは天に在り

(「白アリ」孔明と「三國志演義」)

伊藤晋太郎

御卒業おめでとウジグいます。  
真面目に教り組んで、いざ、いざ  
誰かが助けをします。心配せず  
社会で活躍してください。

教職課程センター 矢持昌也

## 信は力なり

### 美我は心なり

教職課程センター

高松健雄

卒業おめでとウジグいます。

学究的・同志的世界から契約的で制度的な世界へ  
歩み出まわりますが、自らの志を模索し、同志的な  
出会い(アンジェションゲーム)を今後大切にして下さい。  
ただし、小さな志の同意的関係は分断と対立を生む  
こともあるので、志高く大きな志をもって関係者みん  
なの納得と合意(民主主義)を大切にして下さい。

小淵朝男

## 君もまぶしい

### 夢そのもの

(いまものがかり)

「生きて、燦々」  
長谷川史輝

# 清坐契心賞

心を清らかに保つて静かに坐していると、おのずから心中  
の美点が悟られるという意です。清坐契心賞(せざ  
しんじょう)にちなう、新しい活躍の場を得られますよう祈念して  
います。  
教職課程センター 特別招聘教授 北村泰子

「倒れなかつた人が強いのではない、倒れて

も立ち上がる人が、本当に強い人です。」

学生時代に学会、発言業。大切にしてください。  
健康第一に、素敵な人生を歩んで下さい

萩原哲哉

「かえるべきもの」をしっかりと見極めて  
自分の社会もかえて行きたいよ!

島田泰子謹詠

(inspired by R. Niebuhr)

## 学舎での経験が

活かされますように

林 英一

「ささやかな」を積み重ねながら

素敵な人生をお過ごし下さい

萩原哲哉

# 国際政治経済学部 国際政治経済学科、国際経営学科の先生方から 餞の言葉を頂きました。

「ご卒業 おめでとぅございます！  
これから学びを楽しんでください！！

大塚 敬子

おめでとぅございます。

これからもお元気で頑張ってください。

百々 裕也

ご卒業 おめでとぅございます。

菊地 宏樹

ますます輝いて下さい！！

中垣 陽子

御卒業おめでとぅございます

人生の船長は自分自身  
他者の価値判断に流されず  
自らの心の声に従って舵を取ろう

藤井 宏次

いつでも学び続けることで新しい

自分を見つけていることができると思  
います。健康に気をつけて自分の  
人生を楽しんでください。安井 繁宏

安井 繁宏

一歩一歩、大切に歩んで下さい。

皆さんのご多幸を心よりお祈りして

おります。

戸辺 玲子

ご卒業おめでとぅございます

岩田 幸子

「ご卒業おめでとぅございます。

大学での学びと経験は、これからのカに  
ならず。皆さんの今後の「活躍」を心より  
お祈ります。

木森 佳心介

ご卒業おめでとぅございます！

小久保 依哉

ユーモアのセンスを磨いて

楽しい人生を送りましょう

押野 洋

御卒業おめでとぅございます。

これからの御活躍を心より願っています。

関次 修子

ご卒業おめでとぅございます。

心身の健康第一に、思いやり

を忘れず頑張ってください。

阿部 和美

学生から社会人へ

「はる」という事！

しっかりと自覚して

下さい。

白石 まりも

卒業おめでとぅございます。

明るい未来をお祈りいたします

本内 峰子

御卒業おめでとぅございます。

小具 龍史



二〇二五年度  
**卒業式**

二〇二六年三月十七日(火) 文京シビックホールにおいて、二〇二五年度二松学舎大学学位記授与式(卒業式)が挙行されました。門出を祝うような晴天に恵まれたこの日、会場には多くの卒業生の笑顔が溢れました。

午前十一時十五分、開式宣言に始まり、国家斉唱(清聴)、学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生に学士(国際政治経済)の学位記が授与されました。各学科それぞれの成績優秀者には、創立者の名を冠した「中洲賞」として賞状と記念品が授与され、その後教育職員免許状が伝達されました。

続いて佐藤晋学長の告示、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞と式は進行し、厳粛な空気のまま閉式しました。閉式後は会場内の数箇所に分散し、卒業生たちは学位記を受け取り、式典は終了となりました。式典後は、友人たちや先生方と談笑したり記念撮影をしたりと、学生最後の時間を楽しむ様子が見られました。

卒業生の皆さんがこの日の喜びを胸に、社会で活躍されることを心よりお祈りしております。



## 2025年度 卒業記念パーティー in 東京ドームホテル 天空

2026年3月17日(火)、午後2時より東京ドームホテル「天空」において、2025年度卒業記念パーティーが開催されました。パーティー会場ではゼミの先生を囲んでの写真撮影や友との語り合いの楽しい時間が瞬く間に過ぎ、終了後は立ち去りがたく別れを惜しんでいる姿が見られました。



# 卒業生 四年間を振り返って

卒業にあたり、新しい人生への希望に満ちた門出に胸ふくらませている学生六名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。



国文学科

三 浦 萌 夏

## 『縁あれば千里』

四年間を振り返り、いまこの原稿を書いていることが不思議な感覚です。時間はあつという間と言いますが、ついに卒業を目前としていることが信じられません。まずは、無事に大学生活を終えられたことを嬉しく思うとともに、支えてくださった教職員の皆様、父母会の皆様に厚く御礼申し上げます。

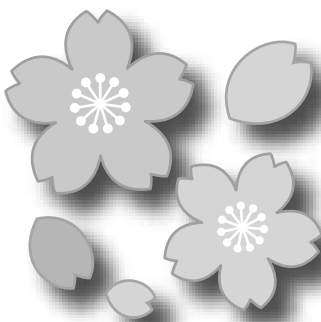
四年前、初めてのガイダンスで教室に集められた私たちはこれから始まる新しい生活に期待と不安を抱えそわそわした気持ちで会が始まるのを待っていました。友達が出来ないことを恐れた私は大学生活のためにSNSアカウントを作り、それが功を奏して知り合いができ安心したことを覚えています。ここで知り合っ

た彼女たちはかけがえない友人となり、現在まで支え合いながら過ごしてきました。きっとこれからもこの縁が続いていくだろうと根拠のない自信を持っていることを思うと、あの時勇気を出して話しかけたお互いへ感謝したいです。二松学舎で得た大きな財産の一つが友人です。

振り返ると、せっかくの都心に通っていたにもかかわらず大学と家の往復に終始していた私にも思い出されるのが様々にあり、思っている以上に温かな日々を送っていたのだと実感します。二松学舎大学と出会うきっかけは夏目漱石でした。漱石アンドロイド先生のふつくらとした手と握手させていただいた感動は忘れられません。

心に残る思い出はいくつもありませんが、その内容もさることながら、そこでの人との出会いが私を常に支えてくださいました。アットホームに受け入れてくださったゼミナールの荒井先生と仲間たち、深い愛情をもつて関わってくださった教職課程の先生方と職員の皆様、進路に悩む中で親身に相談に乗ってくださいましたキャリアセンターの平さん、少しでも自身を変えたくて臨んだ短期語学研修をサポートしてくださいました国際

交流センター職員の皆様、ともに支え合いながらフイリピンで過ごした仲間たち、温かな現地の人々、あげるときりがないほどの出会いに恵まれました。そしていつも側にいてくれた家族にも感謝したいです。関わってくださいましたすべての方々に改めて心より御礼申し上げます。二松学舎での出会いがあるからこそ、私はこれからも強く歩んでいきます。卒業という大きな節目を迎えますが、今後もこの素敵なご縁が続くことを願い、日々精進して参ります。



# 『学びが拓いた四年間』



国際日本・中国学科

島田 夏希

入学式の日、期待と不安を胸に抱いていたことを今でも鮮明に覚えています。あれから四年の歳月を経て、無事に卒業の日を迎えられることに今は誇らしさと感謝の気持ちでいっぱいです。多くの学びと出会いに恵まれたこの四年間は、私にとってかけがえのない時間となりました。

大学生活を振り返ると、「書道を本格的に学びたい」という入学前からの想いを実現できた四年間で、一年次より漢文や中国文学、思想史などの基礎を学んだことで書論や書道史への理解が一層深まり、常に実技と理論が体系的かつ密接に結びついていることを実感しました。また、筆を執り作品と向き合う時間

は、集中力や忍耐力、常に高みを目指す向上心が培われ、精神面においても大きく成長できたと思います。集大成となる卒業書作展では、これまでの学びと想いを紙面に込めて今の自分でできる精一杯の表現を追求しました。書道は技術の習得にとどまらず、書く行為を通して自身と向き合う大切な拠り所となりました。

さらに、他学科の学びにも触れられるカリキュラムを通して文学の枠を超えた新たな視点を得ることができました。IT科目を履修したことをきっかけに、現代のデジタル社会に関心が高まりました。そして、卒業論文では書道とITという一見相容れないテーマを掲げ、現代のデジタル化における書文化の変化や書道の継承について考察を深めました。

この研究に取り組むことができたのは、書道という専門分野を軸にしなからも他分野へと視野を広げられる学びの環境があったからです。この柔軟な発想を受け止め、認めてくださったゼミナール教授の関俊史先生には心より感謝申し上げます。

本学での学びを通じて、将来の選択肢が大きく広がりました。漠然としていた将来像も次第に形を帯び、第一志望であったIT企業から内定をいただくことができました。四年間で

築いてきた学びのつながりが、進路を決める就職活動にも生かされたのだと思います。

このような充実した大学生活を送ることができたのは、熱心にご指導くださった諸先生方、共に学び支え合った友人、そして日々温かく見守ってくれた家族の存在があったからこそです。心より感謝申し上げます。卒業後、社会人となってからも大学で培った学びを分野の垣根を越えて生かし、新たな環境の中で成長し続けていきたいです。

# 『今の私』



都市文化デザイン学科

石田 舞

愛知県名古屋からここ東京にひとりで上京し、不安でいっぱいだった四年前。

今ではたくさんのご縁に恵まれ、二松学舎大学での出会いは私にとって

かけがえのないものです。四年間サークル活動はしていませんでしたが、他学科の友達や他学年とも関係を築くことができ、充実した学校生活になりました。

私はどんな状況でも努力をすることに決めました。一年生で夢のためにインターンシップに行き、会社での活動をはじめました。そこで任せられていた仕事は、今までの学生生活では経験できないような内容です。一生懸命制作した作品が評価されたときはとても嬉しかったのを覚えていています。

二年生からは「やりたいことをやる」ということをモットーに行動をはじめました。夢みた世界と現実とのギャップに涙して、悔しい思いも沢山しました。しかし、その経験が今の私に繋がっています。

私が学生の皆さんにお伝えできることはひとつしかないと思います。大学の授業には行きましょう。勉強を甘く見てはいけません。

勉強は強いられてやるのがいちばん苦痛だと思います。二松学舎大学は他学科の単位も取らなければならぬので、自分が学びたい分野でない授業はやる気が出ない時もあります。

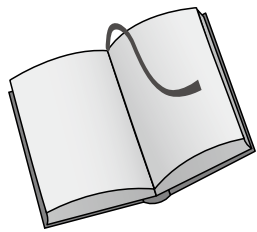
皆さんは私と同じようにやりたいこともありますし、バイトもかかせません。それでも勉強をしないという選択肢はもつたないのです。私は一年生～四年生の間でほぼ全て授

業に出席し、テストや課題をこなし、特待生に毎年選ばれていました。そのお陰で四年間授業料が返還されています。私はその制度に救われたので大変感謝しております。つまり、私が二松学舎大学の制度をよく理解した上で、どの選択肢がやりたいことをやりつつ学生生活を一番豊かに効率良く過ごせるかを考えた結果が「勉強する」ということだったので。

また、好きなことをするために、成績が優秀であることは大いにアドバンテージになります。

自分勝手に後先考えず好き勝手やっているとかわれず、ちゃんとしている方と大半は思ってくださいます。

自分の人生は自分で決めるものだと思うので、ご自身が一番後悔のない四年間を過ごせることを祈っております。



## 『人に恵まれた大学生活』



歴史文化学科

石川 貴裕

今改めて入学から現在に至るまでの大学生活を振り返ってみると、ゼミナールをはじめとして、大学生活の様々な場面で「人に恵まれた」と感じる四年間でした。

大学に入学したばかりの頃は、大学生生活という初めての環境に右も左も分からず戸惑うことや、不安に思うことが多くありましたが、私と同じ二松学舎大学の附属高校から歴史文化学科に入学した友人たちが一緒にいてくれたおかげで、「大丈夫だ」と思いながら新しい環境で過ごすことができました。また、この友人たちがいてくれたことで、二年生以降からの大学生活を共に過ごす新しい友人にも巡り会うことができました。この附属高校の友人たちの支えが無かったら、こうした良いスタ

ートをきることができなかったと思います。

そして、三年生から所属したゼミナールでも私は良い仲間にも恵まれたと思えました。はじめはお互い少し面識はあるものの、あまり話す仲ではなく硬い空気感でしたが、夏休みの合宿をきっかけに共に勉強し、宿で他愛もない話などをしていく中で次第に仲良くなっていきました。こうして、ゼミナールの仲間ともメリハリのあるとても良い雰囲気の中で一緒に卒業論文制作に取り組むことができ、本当に良い仲間にも恵まれたと感じています。

最後に、こうした友人関係やゼミナールの仲間以外にも、二松学舎大学で講義をしてくださった先生方にも私は恵まれたと感じています。学

芸員を目指している私に、学芸員課程の先生方が様々なアドバイスをしてくださったり、学芸員課程以外の先生方でも、そうした状況を話した時にアドバイスをなどを個別にしてくださったりしました。こうした学生の方に出会えたことは、大学生活を送る上で本当にありがたかったと感じています。

このように、私の四年間の大学生活は様々なところで人との出会いに

\*\*\*\*\*

## 『Passion』



国際政治経済学科

山田 優希

\*\*\*\*\*

四年前の春、着慣れないスーツに履きなれないパンプスで入学式に出席したことを今でも鮮明に覚えています。地元の栃木県とは比にならない街の賑やかさに圧倒され、片道二時間の電車通学を「四年間無事に通

恵まれ、そうした良い人に支えられたことで充実した四年間を過ごすことができたのだと思います。さらに、こうした充実した大学生活に集中して過ごすことができたのは、大学の職員の方や父母会の方々、そして何よりいつもそばで見守ってくれた家族の支えのおかげです。このような私を支えてくれている身の回りの人や二松学舎での出会いに感謝しながら卒業後も歩んでいきたいと思えます。

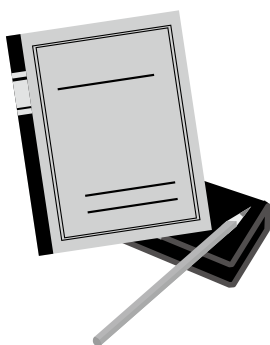
いきれるだろうか」と不安な気持ちでのスタートでした。しかし、その不安は次第に解消されることになりました。オンラインで授業を行う大学があった中、二松学舎大学では、全対面授業が実施されました。毎

日、友人と顔を合わせ、共に授業を受ける。そんな当たり前のようできて、恵まれていた日々の積み重ねが、私の不安を充実感へと変えてくれました。そんな初々しい時から月日は流れ、卒業の時を迎えました。

四年間を振り返れば、沢山の出来事がありました。一年生の十二月、私の大学生活の行動指針を決定づける出会いがありました。きっかけは、英語特別プログラムへのエントリーでした。選考の面接で、西川雅子先生に「Passionさえあれば大丈夫よ。」とお言葉をいただきました。「Passion」とは、難しい理屈ではなく、自分のやりたいという熱い想いを信じること。当時、何をすることも、やらない理由を探している私にとつて強く響いた言葉でした。私は、自分の興味関心に蓋をしていましたが、この言葉に背中を押され、何事も熱く頑張ってみようと決意しました。それからは、「Passion」を原動力に突き進む日々でした。正直なところ、熱意だけでは上手くいかない壁もありましたが、ゼミや就職活動、授業、アルバイト、旅行などが数多くあります。友人や家族からは熱すぎると言われることも多々あ

りましたが、この熱さこそが、後ろ向きな自分を前向きへと引つ張り、世界を広げてくれました。迷ったときこそ熱い想いに立ち返る。四年間で磨き上げた私の「Passion」は、これからの人生の指針となるかけがえのない財産です。

最後になりますが、大学生活を二松学舎大学で過ごせて本当に良かったと思います。通学を支えてくれた両親、苦楽を共にした友人たち、親身に支援をしてくださったキャリアセンターの方々、温かいご指導をしてくださった先生方、ゼミだけでなく些細な相談にも乗ってくくださった阿部和美先生。私の大学生活に関わってくくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。皆様に恩返しができるよう、社会に出ても自分らしいPassionを持ち、精進して参ります。



## 『大学生活を振り返って』



国際経営学科

松崎友香

新品のスーツに身を包み、少しの緊張と不安を抱えながら入学式に向かったあの日から四年が過ぎました。今、卒業の時を迎え、大学生活を振り返ってみると、多くの友人に恵まれた四年間だったように感じています。

正直に言えば、私の大学生活は挫折から始まりました。第一志望の大学に落ち、滑り止めとして受けたこの大学に入学した当初は、高校時代の自分が思い描いていた理想の生活が崩れてしまった喪失感の中にいました。目標を見失い、どこか冷めた気持ちで授業を受けていた時期もあったのが本音です。

そんな私を変えてくれたのは、ここで出会った友人たちでした。一緒に講義を受け、くだらない話で笑い

合う何気ない日常の中で、沈んでいた気持ちは自然と晴れていききました。毎日と一緒に笑って過ごせる仲間がいることで「大学が楽しい」と思えるようになり、この場所で頑張る意欲が湧き、前向きに大学生活を送れるようになりました。

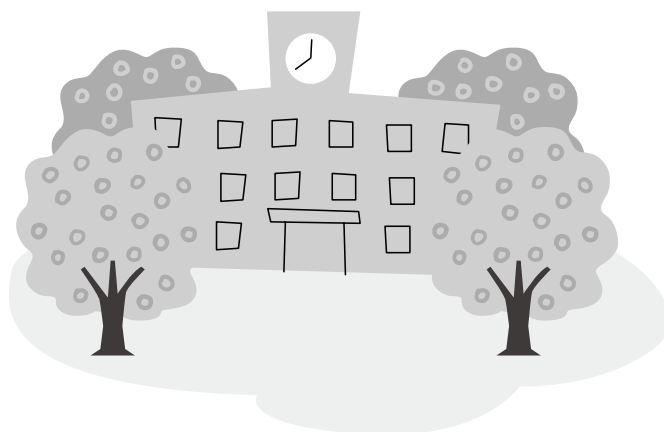
大学生活の中で一番印象に残っているのは、小具龍史先生のゼミナールでの活動です。ゼミナールでは、マーケティングや新規事業開発について学び、ビジネスコンテストや企業との産学連携に取り組みしました。特に、以前から関心を持っていた観光業界の企業とのプロジェクトは、非常に貴重な経験となりました。実際の現場の魅力や厳しさを肌で感じ、社会人になる上で自分が何を大切にしたいのかを明確にすることが

できました。

活動の中では、良いアイデアが出なかつたり、資料作りに苦戦したりした際も、助けてくれたのは、やはり友人の存在でした。親身になって相談に乗ってくれたり、一緒に遅くまでアイデアを練り直したりしてくれた時間は、私にとって大きな支えとなりました。一人では到底乗り越えられなかったことも、切磋琢磨し合える仲間がいたからこそ、最後までやり遂げられたのだと思います。

四年前に抱いていた不安や悔しさは、この場所であ会った方々のおかげで、今は温かな感謝の気持ちに変わっています。大学生活で得た一番の財産は、知識だけでなく、こうした人との繋がりがあったのだと確信しています。

最後になりますが、大学生活を支えてくれた家族、熱心にご指導くださった先生方、そしてこれまで関わってくれたすべての方々に心から感謝申し上げます。二松学舎大学での学びと絆を大切に、春からは社会人として、様々なことに恐れず挑戦していきたいと思えます。



就職活動は、学生にとって「社会へ踏み出す準備期間」であると同時に、自分の言葉で自分らしさを説明し続ける期間でもあります。近年は、早期選考の前倒しや選考の長期化、インターシップの多様化、Web面接・グループディスカッションの定着、SPI等の適性検査対策、さらにSNSや口コミサイト、就活エージェント、生成AIの活用等々、情報量と選択肢が大きくなっていきます。その一方で、何を基準に判断し「自分だけの一社」を選択すればよいかが見えにくく、不安や焦りを抱えやすい環境でもあります。タイプや最適解を重視する学生たちにとってはなおさらでしょう。

**アー  
リタ  
リ** **82**  
**キセ  
だ  
ヤ  
ン  
よ**

キャリアセンター事務課 村山由美  
(国家資格キャリアコンサルタント)

準備に向かっていく。結果に一喜一憂するのは将来を真剣に選び取るうとしていく証であると感じます。保証人の皆さまにおかれましては、深い愛情の表れとして何か手助けをしたいと思いますというお気持ちでこの時期をお過ごしになると思います。ただ、就職活動は最終的にご本人が意思決定し、進路を選ぶプロセスです。ご家庭では、結果とともに努力の過程を認めることがなにより励ましであり、学生の自己効力感を支える大きな力になるものと思います。早く決めることより納得して選ぶことを、大人も一緒に大切にしたいものです。迷った時間も遠回りも、これからの長い人生、後に自分を支える糧になります。

私たちキャリアセンターも、進路相談、応募書類の添削、模擬面接等を通じて伴走しております。どうか焦らず温かく見守っていただき、必要なきときにそっとお力添えをいたしますと幸いです。

年齢を重ねるにつれ似た者同士で過ごすようになってきたような気がします。大学の専攻を決めた時点で似通った関心を持つ集団に所属することになりますし、仕事を選択した時点でその職業の文化の中に生きることとなります。そこで出会った友人たちとの会話は、全てを言葉にし尽くさなくても分かりあえる楽しさと、簡単に関係が壊れてしまうようなすれ違いは起こらないだろうという安心感にあふれています。

**学 生 相 談 室**  
**だ よ り 132**  
カウンセラー 森岡さやか

そんな心地よさが当たり前になっていた自分と新しい出会いがありました。そこでの私は相手の意図が読み取れず、自分の言葉がどう受け取られているのか分からず、なにかとスムーズなやりとりができずにいました。相手の考えを理解しようと思いましたが結局自分の思考回路でしか推論できず、思わぬことが起きたときどちらが正しいのかという思いに囚われてしまいます。腹を割って話ができたらなにもっと理解しあえると思えました。言葉

を交わして確かめることが分かりあうために役立つことは確かにあるでしょう。しかしどこまで伝えるのか、どう表現するのか、その塩梅だつて人それぞれのもっと意見を聞かせてほしいとお願ひすることはできて、意見を言うべきだと主張するのは押し付けになってしまいます。分からないことは分からないままに、分からないけれど確かに「何か」が存在しているということをお心に留めておくこともまた、異なる者同士が互いを尊重しながら交流する方法なのかもしれないと思えました。

分からないままのものを抱えているのは概して不安です。不安のある人付き合いは程度の差はあれ猜疑心を生じさせ、自分の存在さえも揺さぶるようなところがあります。分からないことへの答えを知るためではなく、分からないことを分からないままに抱えておくためにも相談室がお役に立てればと思ひます。

## 2025年度学生褒賞

区分	学年	氏名	主催	大会名	受賞内容
個人	4	松尾 空	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第11回葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール	葛飾区長賞
			葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第11回葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール	葛飾区教育委員会賞
			公益社団法人 日本書芸院	第30回全日本高校大学書道展	優秀賞
			読売新聞社	第41回読売書法展	入選
			公益社団法人 全日本書道教育協会	第109回書教展	中国大使館賞
	4	島田 夏希	公益社団法人 全日本書道教育協会	第109回書教展	文部科学大臣賞
			高野山 総本山金剛峯寺	第59回高野山競書大会	高野山書道協会賞
	4	菊池 大基	公益社団法人 全日本書道教育協会	第109回 書教展	中国大使館賞
			公益社団法人 日本書芸院	第30回全日本高校大学書道展	全日本高校大学生書道展賞
	4	吉野 和真	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第11回葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール	柴又帝釈天賞
			公益社団法人 日本書芸院	第30回全日本高校大学書道展	優秀賞
	3	柴田 美紗	公益社団法人創玄書道会	第61回創玄展	詩文書部二科賞
			公益社団法人創玄書道会	第61回創玄展	漢字部 入選
			一般財団法人毎日書道会	第76回毎日書道展	近代詩文書U23部 入選
			佐久市教育委員会	第14回比田井天来・小琴顕彰佐久全国臨書展	入選
	2	中山こころ	公益社団法人 日本書芸院	第30回全日本高校大学書道展	書道展大賞
			公益社団法人 全日本書道教育協会	第109回書教展	文部科学大臣賞
	2	藤崎 小雪	ふくやま書道美術館	第21回ふくやま書道美術館臨書展	大賞
	2	根本 優菜	高野山 総本山金剛峯寺	第59回高野山競書大会	金剛峯寺賞
	1	神野 心花	公益社団法人 日本書芸院	第109回書教展	二松学舎大学学長賞
	1	西澤 有多	公益社団法人創玄書道会	第62回創玄展漢字部第二科	漢字部第二科入選
			全日本学生囲碁連盟、株式会社パンダネット	第12回全日本学生囲碁最強位戦	全日本学生囲碁最強位戦4位
	3	夏加 一生	一般社団法人全日本かるた協会	第14回競技かるた鳳玉大会	E級準優勝
3	渡邊 歩美	鳳玉大会運営委員会(後援:一般社団法人全日本かるた協会)	第17回鳳玉大会	C級3位	
2	田島 琉心	一般社団法人全日本かるた協会	新春全国かるた大会	E級3位	
2	竿田 元	諸橋轍次記念館・三条市	第17回諸橋轍次博士記念漢詩大会	優秀賞	
2	藤村 昇輝	諸橋轍次記念館・三条市	第17回諸橋轍次博士記念漢詩大会	優秀賞	
2	佐々木 愛	諸橋轍次記念館・三条市	第17回諸橋轍次博士記念漢詩大会	優秀賞	
2	嶋村 健児	全国大学国語国文学会	全国大学国語国文学会2025年夏季大会(第131回)	研究発表奨励賞	
4	夏秋 富蔵	K-1実行委員会	K-1カレッジ2025 ~大学生日本一決定トーナメント~	-55kg級準優勝	
2	倉本 小雪	海洋連盟、舵者、日本財団	うみぼす2025	一般インスタの部 入賞	
区分	団体名	代表者氏名	主催	大会名	受賞内容
団体	書道部	高野 藍	高野山 総本山金剛峯寺	第59回高野山競書大会	団体努力賞
			公益社団法人 全日本書道教育協会	第109回書教展	団体奨励賞

## 課外活動団体助成

父母会では、課外活動団体が学外展を実施する場合や、文化・体育活動の大会に参加する場合などに助成を行っています。今年度は、「劇団こんにちはシアター」「書道部」「手話サークル 架け橋」へ助成を行う予定です。今後も活発な活動を行う学生たちを支援していきます。

## ◆劇団こんにちはシアター 卒業公演

期間：2025年2月28日～3月2日  
会場：吉祥寺権スタジオ

## ◆手話サークル 架け橋

- 千代田区社会福祉協議会主催「ひだまりサロン」ボランティアの企画運営
- NHK主催「NHK18祭」架け橋で応募をし、1000人に選ばれて参加。
- 国際ろう者スポーツ委員会主催「東京2025デフリンピック」への参加。

## ◆書道部 二松学舎大学書道部書作展

期間：2026年3月7日～3月9日  
会場：タワーホール船堀

# 父母会からのお知らせ

## 二〇二六年度 父母会定期総会について

左記の日程により、二〇二六年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたします。

日時：二〇二六年六月六日(土)

会場：二松学舎大学九段キャンパス  
一号館

内容：二〇二五年度事業報告並びに  
決算

二〇二六年度事業計画並びに  
予算等

\*  
新二年次生、新四年次生の会員の皆様には、二〇二六年度定期総会のご案内と出欠票(委任状)をこの父母会報第一三二号に同封しておりますので、ご確認願います。

また、準備の都合上、ご出欠を同封の出欠票(委任状)で五月八日(金)までにお知らせください。

定期総会資料につきましては、五月中旬頃に郵送にてお届けします。

## 二〇二六年度 地区別父母懇談会について

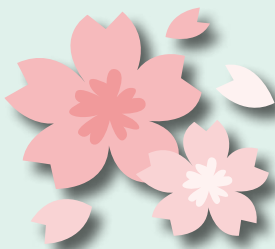
父母会では、大学の協力のもと各地区を訪問し、意見交換を行う「地区別父母懇談会」を実施しております。

二〇二五年度は、六月下旬から八月上旬にかけて、茨城県水戸市、群馬県高崎市、九段キャンパスの三会場で開催いたしました。

二〇二六年度の日程および開催地につきましては、詳細が決まり次第、郵送または父母会ホームページにてご案内いたします。

本懇談会では、教職員より、大学の現況をはじめ、履修状況や学生生活の様子、就職活動に関する支援等について説明を行っております。大学関係者に直接声を届けることのできる貴重な機会ですので、ぜひご活用ください。

会員の皆様には、改めて開催案内をお送りし、出欠の確認をさせていただきます。万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。



## 編集後記

四年生の皆様、保証人の皆様、二松学舎大学ご卒業誠におめでとうございます。長かった学生生活もいよいよ節目を迎えられました。入学以来、それぞれが努力を重ね、学びを深めてこられた日々、心より敬意を表します。この春、新たな一歩を踏み出される皆様の前途が希望に満ちたものでありますようお祈り申し上げます。二〇二五年は社会全体が大きな変化と発展の只中にあり、急速に進むデジタル化や生成AIの普及により、学びや働き方は大きく姿を変えています。その一方で、人と人とのつながりや対話の大切さも改めて見直されています。大学での対面授業や課外活動、仲間との語らいの時間は、かけがえのない貴重な財産となったことでしょう。変化の激しい時代だからこそ、自ら考え主体的に行動する姿勢が求められます。困難に直面することがあっても、これまで培った知識と経験、そして周囲への感謝の気持ちを胸に、誠実に歩みを重ねてください。四年間で築かれた絆と学びが皆様の大きな支えとなり、それぞれの道で一層ご活躍されますことを心より祈念申し上げます。